

平成 29 年度 第 1 回 福岡市総合図書館運営審議会 議事録

1 日 時：平成 29 年 9 月 27 日（水）10：00～11：45

2 場 所：福岡市総合図書館 3 階 第 1 会議室

3 出席者：委 員）青木理枝，阿久根健一郎，渡邊由紀子，増本桂子，梶山美知子，梶田由美子，木村由美，香川純子，高橋昇，白根恵子，脇川郁也，市澤安雄，柴田富之（計 13 名）

職 員）齋田館長，中川事業管理部長，坂本運営課長，岩口図書サービス課長，三浦文学・文書課長，八尋映像資料課長 他  
傍聴人）1 名

4 議事録

1. 開 会

館長挨拶／委員紹介／職員紹介

2. 議 事

議題 平成 28 年度事業報告について

委 員	P1 総合図書館の開館時間を 1 時間延ばしたにもかかわらず，1 時間当たりの入館者数が減っている。
事 務 局	入館者数は，図書館のすべての利用を含んでおり，貸出冊数等も含めて実態を分析していきたい。
委 員	P16 図書の購入状況を知りたい。外国文学の新訳本には，優れた訳もあるので改めて購入しても良いのでは。
事 務 局	平成 28 年度は 32,452 冊，27 年度は 31,199 冊購入している。また，平成 28 年度は 8,767 冊，27 年度は 9,125 冊寄贈していただいている。 外国の翻訳本については，選書で市民のリクエストによる購入，図書館として購入すべきもの，保存すべき本の購入もある。総合図書館資料収集方針を基に，社会的背景も加味しながら選書し購入している。
委 員	図書購入費が減じている。新刊本がないのに開館時間を延ばしても入館者数や新規登録者数は増えない。予算の増額がないと改善できない。
委 員	収集方針は一度決めたら変えるようなものではない。
事 務 局	資料収集方針については，総合図書館資料収集方針があり部門ごとに詳細な資料収集方針を定めている。分館については，別途，資料収集の方向性を作成し，地域の特性や利用者の意見を反映させて毎年度，見直している。
委 員	P17 モデル児童図書目録の配布について，新しい本の中からリストを作って窓口においているのは評価するが，新刊図書が主で，過去の名作は入っていない。

委 員	他都市のモデル児童図書目録をみると丁寧に作られコメントまで入っている。
事 務 局	そのような目録があると良いと新ビジョンの点検評価会議で伝えた。
委 員	従来は、冊子で対象が幼児から 6 年生までを 4 区分にして作成していた。区分ごとの作成サイクルが 10 年から 15 年だったのを、各区分を毎年作成することに見直し、ペーパーにして窓口で配布している。普遍的な本については、これまでの冊子に掲載されていたものを一覧ペーパーにしてあわせて配布しているが今後、使いやすいように改善していく。
事 務 局	本が家になく、学校の図書館で本に出会う子もいる。他都市を見ながら工夫してほしい。
委 員	子どもにとって発達段階に応じた図書の提供は大切であるから丁寧に対応していく。
事 務 局	P7 おはなし会について、病院に入院している病気療養中の子に対して読み聞かせはやっているのか。
委 員	病院に出向いておはなし会を行う取り組みはない。団体登録があれば団体貸出の提供はしている。
事 務 局	子ども病院と連携したらいいのでは。図書館のアウトリーチサービスも全国的に広がっているので図書サービスの在り方も今後、検討してほしい。
委 員	子ども病院，市民病院は，福岡市の施設なので連携をとっていきたい。
事 務 局	

報告事項 平成 28 年度福岡市総合図書館の運営に関する評価について  
(福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議の報告)

委 員	P6 入館者数が減っている。入館者が増えない一番大きな原因は何と考えているか。
事 務 局	原因は複数あるが、政令市で入館者が昨年度増加した都市は、福岡市を入れて 4 都市であり、新しい分館ができたりリニューアルをした都市ばかりで、そうでない都市では減少に転じている。このことから一般的に言われている読書離れ、活字離れの傾向が進んでいると考えている。
委 員	具体的に検証するため市政アンケートで読書傾向について調査を行っている。
事 務 局	総合図書館が行ったアンケートで不満が多かったのは、開館時間・休館日であり、これに対応すべきではないか。入館者減少の理由を「本離れ」というと議論が進まない。1 時間延長したことは効果があったと判断しているのか。
委 員	19 時～20 時の間は、昼間に比べ入館者が少ないが、時間別の貸出状況を見ると、来館した方が、より長く滞在し読書をしたことの成果はあったと思われる。
事 務 局	アンケートで満足度は増えているが、まだ不満に思う人も存在している。
委 員	満足度は図書館利用者に対する調査であり、公共施設として幅広く市民に図書館に対する意識を確認するため市政アンケート調査を行ったところである。現に図書館を利用している人に満足してもらうのはもちろんであり、また、図書館に来館していない市民にどのような取り組みをすることが有効かと考え進めている。
事 務 局	

事務局 委員 事務局 委員	<p>まだ、図書館に馴染みのない人をどう取り込んでいくかを総合的に検討していく。</p> <p>新規の来館者を取り込むには、開館時間の見直しが必要である。</p> <p>新ビジョンは10年の計画であり、後期の計画で継続して検討していく。</p> <p>入館者数が減少している原因については、図書離れという考えだが、入館者数を増やすために効果があるのは何と考えているのか。</p>
事務局	<p>平成28年度から総合図書館を1時間延長したことで東図書館の立地の良さで利用者が増加した。社会を取り巻く状況や市政アンケート調査でのニーズも分析しながら対応していくのでしばらく時間をほしい。</p> <p>図書館の利用者を増やすためにはどうしたらいいのか、総合的な観点から検討するとともに委員の意見も伺いながら対応していきたい。</p>
委員	<p>内部評価と外部評価で評価が分かれているのが5項目ある。</p> <p>P10 資料収集の充実について、内部評価がA、外部評価がAとBとCに分かれる。外部評価に対する検討は行ったか。</p>
事務局	<p>電子書籍の導入については、全体の収集方針のなかで検討を進めるが現時点では、進展していない。</p>
委員 事務局	<p>資料収集費が、減額になっていることについて検討はしたか。</p> <p>図書館にとって大きな課題である。まずは、現在の水準を保ち、今後は、資料購入費の増額に取り組んでいきたい。また、新刊本の購入も大事だが、現在ある蔵書の良さに改めて気づいてもらえるよう企画事業を実施しながら図書の魅力を伝えていく。</p>
委員	<p>P15 団体貸出先の拡大について、団体登録が増えたのは良いが、貸出図書が古く冊数も少ない。満足できる図書を届けてほしい。</p>
事務局	<p>団体貸出は、毎年増えている。平成30年度の目標に達しようとしている。団体貸出用図書は185千冊で登録をしていない団体には図書の貸出しは行っていない。</p>
委員	<p>団体登録の目標は達するのに、貸すための本が古いのは予算がないからである。図書が新しくならないと問題は解決しないし、利用者の要求に応えられない。新刊書の購入と市民からの寄贈を考えてほしい。</p> <p>市民を巻き込み図書館が魅力的になるアイデアを募ったらどうか。</p>
委員	<p>P17 議会図書室との連携について外部評価の意見に対して図書館はどう考えているか。</p>
事務局	<p>議会図書室と総合図書館との相互の連携について、目標は達成しているが内容が不十分だということで、議会事務局と定期的に協議を行い、積極的に広報していきたい。</p>
委員	<p>P18 市施設の図書室との相互協力について、返却拠点はあがるが、貸出拠点が増えないことについてどう考えるか。</p>

事務局	図書館にとって、蔵書を充実させることと貸出・返却の利便性の良さは重要であり市の施設との連携の打診は行っているが、多くの課題があり進展していない。今後も連携を検討していく。
委員	福岡市科学館で本の返却や貸出はできるのか。
事務局	10月1日から4階のサイエンスナビで返却と予約本の貸出ができる。
委員	P32 施設の有効活用などによる財源確保について、雑誌スポンサー制度は3年続けて検討しているようだができないのであればやめる方がいいのではないかと。
事務局	雑誌スポンサー制度については、政令市で8市、県内11市町、3県が導入している。課題が多く実施に至っていないが検討中である。
委員	P23 学校図書館支援センターの支援は有難い。学校図書館には人が必要であり、そうでないと学校図書館が機能していかない。
委員	2年に1回学校司書が配置されるが、司書教諭が図書整理をしたりして手を煩わせているので校長会でも話題になっており全校に学校司書の配置を希望している。
委員	中学校も学校司書が充実しておらず、生徒会と保護者のボランティアで図書の整理を行っている。
委員	学校図書館支援センターで貸出しをしていただき、また、期間が長くなり学習に効果的で助かっている。
委員	学校にボランティアとして、図書整理や読み聞かせだけでなく本のレファレンスも行っているが専門知識が必要である。ボランティアの育成も大事だが司書の存在は必要である。
事務局	学校図書館支援センターは、学校指導課と連携し支援するとあるので学校指導課の連携はもちろんだが司書、司書教諭と話し合う場があるといい。
事務局	学校指導課とは毎月、協議や情報交換を行っており学校司書、司書教諭に対しては、学校図書館支援センターの職員が訪問の際に話し合いを行っている。
委員	常時相談を受ける体制をとっており今後とも十分に連携をとっていきたい。
委員	予算がないなら、現場でできることをやっていかなければならない。
	映像部門は、福岡市の図書館の特徴だが映画上映については、広報の仕方を検討するよう以前から言っている。
	図書館の運営については、一般の人の意見を聞くことが大事である。例えばモニターやアドバイザーを創ったらどうか。

### 3. 閉会

事業管理部長挨拶／事務連絡